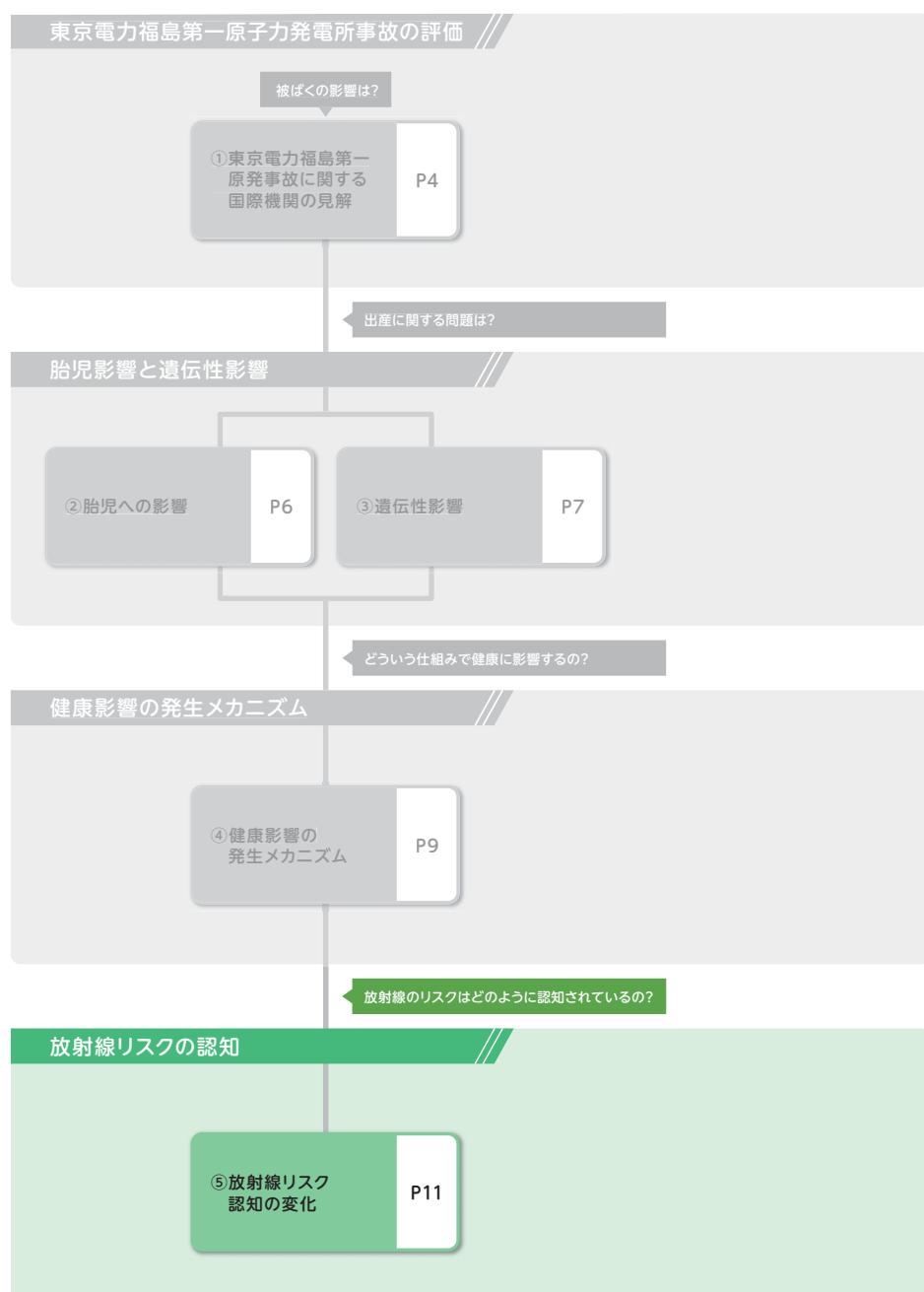




テーマ 放射線リスクの認知

放射線の胎児や次の世代への影響についての調査結果や健康影響発生のメカニズムを見てきました。

ここでは、放射線の健康影響に関するリスク認知の変化について知ることができます。



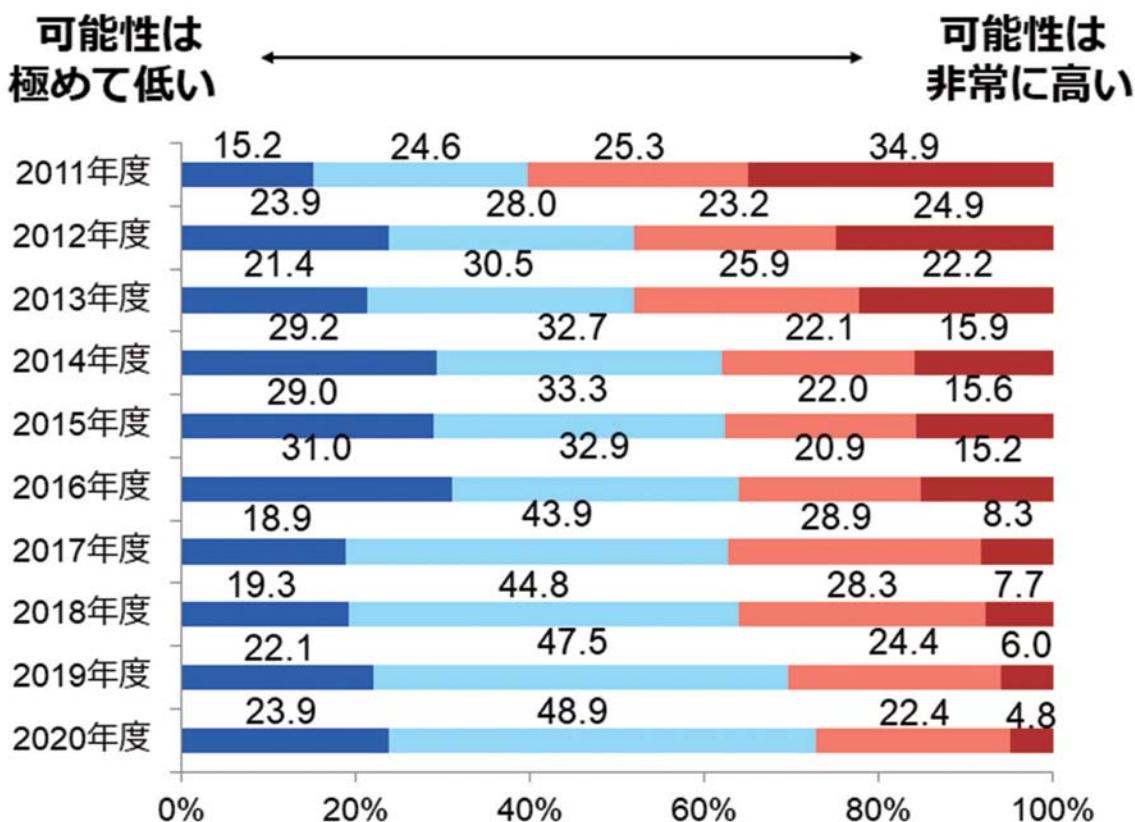


⑤放射線リスク認知の変化

これまで見てきたように、事故当時にお腹にいた胎児やこれから新たに生まれてくる次世代へ、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線被ばくの影響はないと言えます。

その一方で、放射線被ばくの影響について、次世代に影響すると考える人はどのくらいいるのでしょうか。

○事故による被ばくが次世代に影響するかどうかに関する質問結果



第45回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

福島県が実施している県民健康調査では、毎年放射線の健康影響に関するリスク認知について調査をしています。

図は、その次世代影響に関する質問結果の経年変化を表しています。徐々に次世代影響を心配する人の割合は減少しているものの、依然として4割近くがその可能性を心配しています。

このような放射線の次世代影響への不安は、結婚や妊娠ができるのかといった差別や偏見につながりやすくなります。こうした不安や偏見が被災者にとって敏感な問題であることに留意する必要があります。

環境省では、放射線健康影響に関する課題を通じ、学び・知をつむ“ぐ”、人・町・組織をつな“ぐ”、自分ごととしてつたわ“る”ことにより、風評や差別の元となる誤解の解消を進め、風評加害を生まない社会を目指す「ぐぐるプロジェクト」に取り組んでいます。「ぐぐるプロジェクト」の詳細は

<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/portal/communicate/>をご覧ください。

放射線リスク認知の変化の詳細は令和4年度版 上巻 152ページを参照